



自然環境モニタリング事業

「木のシアワセ視点」で再構築する、
新しい林業のかたちづくり

黄金の森 プロジェクト



久万造林株式会社



事業のねらい

黄金の森プロジェクト ～森林環境の変化をモニタリング～

人工林の管理

人工林の
生態系モニタリング

生物多様性に配慮した
人工林管理の在り方を検討

「人工林」内で一定の生物多様性を確保

久万高原町の周辺部、つまり山岳地（石鎚山系や大川嶺など）には高い生物多様性が維持されているエリア（保護区）が存在する。町の林野率は約9割であることから、一見すると全域で森が連続的に広がっているように見える。しかし、保護区以外の森林のほとんどがスギ・ヒノキの人工林であるため、実際には生物多様性に配慮された森林環境にはなっていない場所も多い。そこで人工林にパッチ状の広葉樹林や渓谷林を維持もしくは再生させることで、多様な動植物の生息地を連続させ、人工林内でも一定の生物多様性の確保を目指す。

成熟した人工林を昆虫や鳥にとって 好適な生息地へ変えていく

伐採や下刈りなどの人為かく乱を受けた人工林、植栽直後の幼齢林には草地的な環境が維持される。このような半自然草地は、昆虫類や鳥類にとって好適な生息地となることが分かっている。成熟した広大な人工林に少しずつ半自然草地を混ぜていくことでより高い生物多様性の確保を目指す。



高効率の木材生産にはマイナス要素ではあるが、生物多様性を高めることで、人工林に社会的価値を付加する。

3つの対象を調査



植物相調査

- 伐採地の植生変化を種リスト作成によりモニタリング

2



哺乳類相調査

- 人工林および伐採地を利用する哺乳類相をモニタリング

1

昆虫相調査

- 植生が変化する伐採地で、昆虫相をモニタリング



3

①哺乳類相調査

人工林および伐採地を利用する哺乳類相をモニタリング

【調査内容】

①巣箱調査

- ・ 樹上性哺乳類（ムササビ、モモンガ、ヤマネ、ネズミ類）の生息状況の把握
- ・ 希少種であるヤマネ、モモンガは生息しているか？

②カメラ調査

- ・ 大型獣、中型獣の生息状況の把握
- ・ 久万高原町で増加しているニホンジカの生息状況調査

イベント化が可能

巣箱の作製、設置
定期チェックほか

②植物相調査

種リスト作成により伐採地の植生変化をモニタリング

【調査内容】

- ・伐採地の植物相変化を種リスト作成により把握する。
- ・鳥による種の運搬、シードバンクの確認
- ・ルートを決めて年に4月、6月、8月、10月に踏査

イベント化が可能

植物観察会として、久万造林(株)事務所から現場までのルートで植物相の変化を観察

③昆虫相調査

植生が変化する伐採地における昆虫相のモニタリング

【調査内容】

- ・半自然草原化した伐採地、その後の遷移でできた二次林内の昆虫相をモニタリング
- ・昆虫採集及び撮影による種同定
- ・ルートを決めて年3回程度の調査

イベント化が可能

昆虫観察会として、久万造林(株)事務所から現場までのルートで昆虫相をモニタリング

お気軽にお問合せください

久万造林株式会社

〒791-1205

愛媛県上浮穴郡久万高原町菅生2-1326-1

TEL/090-6284-4262 (代表)

kentarou-ibe@zourin.com

井部健太郎